

大学教育入門セミナーで「依存のススメ！」

大学生というのは、人生の文脈（ライフサイクル）でいえば、依存と自立を揺れながら、徐々に自立・独立に重心を移行していく大切な時期である。しかし、日本の若者は一般的に言って依存が下手である。「依存が自立を妨げる」と固く信じているようである。100万人近い若者が他者への依存を拒否したまま自立できずに引き籠もっているという事実にもっと目を向ける必要がある。依存の下手な人には、自立する力が育たない構造がある。

赤子を見れば分かるように、人間は本質的に依存能力を持った者しか生き延びられない。大人になっても依存しないで生きている人などいないのである。「個の確立・自立・独立」を好む文化圏の人達でさえも、「依存のない自立は孤立である」（ウイニコット）と述べているぐらいである。それでは「自立心」や「自立力」はどのように育っていくのであろうか。少し逆説的かもしれ

ないが、「まず他人からの依存をしっかり受け止めること」で初めて芽が出る。そして「多種多様な人達からの依存を引き受け続けること」で成長するのである。ここで重要なことは、依存と自立がセットになっている事実である。

教育地域科学部・工学部、いずれの学部も70%近い在学生がこの移行期にあるという調査結果がある。大半の福大生は、依存と自立の間を不安な気持ちで漂っているのである。「依存が自立を妨げる」と確信している学生ほど、強い不安を抱えている可能性が高い。入学というタイミングで「依存も自立も大切である」こと、「依存の心地良さを味わった者しか、他者からの依存を引き受けられない（つまり自立できない）」ことなどを伝える大切な機会がこの大学教育入門セミナーなのである。